

## 会 議 録

会議の名称	平成28年度 第1回 富士見市スポーツ推進審議会
開催日時	平成28年7月27日（水）19時30分～21時20分
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	加藤連治委員、大竹ミイ子委員、北田裕一委員、天野豪雄委員、 神谷和義委員、佐藤俊博委員、菅高志委員、大森重治委員 作野誠一氏（早稲田大学スポーツ科学学術院教授） 事務局（生涯学習課：鳥海課長、中田副課長、横田主査、宇津木主事）
欠席者	井上拓哉委員、田中悦子委員
会議次第	議事 (1) 報告事項 ①市民総合体育館の工事について ②富士見市立市民総合体育館条例の一部改正について(内容説明) ※諮問書送付を含む (2) 協議事項 ①（仮称）富士見市スポーツ推進計画（案）について ・目標値の設定について ・計画の実現について ・全体構成(目次)について  (3) その他
会議資料	資料1 市民総合体育館の全面休館のお知らせ 資料2 体育館条例の改正について(使用料等の見直し)関係 資料3 目標値について 資料4 計画の実現の内容について 資料5 全体の目次について (別紙のとおり)
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議録確認	加藤連治会長

## 会議内容

### 1 開 会

### 2 あいさつ 加藤会長

### 3 議 題

#### (1) 報告事項

①市民総合体育館の工事について

②富士見市立市民総合体育館条例の一部改正について(内容説明)

事務局…既に市民総合体育館メインアリーナの災害復旧工事、サブアリーナの大規模改造工事が開始した。メインアリーナについては、株式会社江田組、協同建設株式会社富士見営業所によるJV、サブアリーナについては株式会社佐伯工務店、株式会社大嶋技建によるJVが受注者。災害復旧工事は726,084,000円で、工期は29年2月28日まで。大規模改造工事は507,967,200円で、工期は29年3月17日まで。総合体育館事務所(キラリ財団)は南畑公民館へ、体育協会事務所は中央図書館2階和室へ移動している。

事務局…市民総合体育館の工事に伴い、富士見市立市民総合体育館条例の一部改正(体育館利用料金の見直し等)が必要になってくる。現行の条例別表(資料2-1)を改正する必要があるため、料金設定の方向性について諮問を行いたい。改正の主な内容としては、アスレチックジム・スタジオの新設、幼児ルーム及び3階会議室の多目的化、メインアリーナの4分割利用、空調機器の新設、利用時間の検討がある。使用料について他市の状況も調査を実施しているが、審議会での意見も条例改正に反映していきたいと考えている。今後の審議予定は資料2-2のとおり。7月27日開催の教育委員会会議で概要説明を行った。9月には審議会から方向性についての答申を頂きたい。その結果を受け、教育委員協議会を開き、その後、教育委員会会義に諮った後、12月の市議会に提案していきたい。

※①②について委員からの質疑はなし。

#### (2) (仮称) 富士見市スポーツ推進計画(案)について

##### 【資料説明】

事務局…これまで審議を頂いた内容を基に、基本目標ごとに目標値を設定した。基本目標に併せて目標値も4つ。4番目の環境整備については目標値を言葉で設定した。検討委員会の質疑は次のとおり。他市の目標値の例は?(学校開放団体数や総合型地域スポーツクラブ数、各種大会参加者数をあげているところもある。)。国・県

の目標値を参考数値としているが市のアンケートと国・県のアンケートは同じものか？(国県の対象は20歳以上、3000人の男女、スポーツの種類は同様の様子。ただ県では通勤や家事など日常生活の中で意識的に体を動かすこともスポーツに入れている。市では日常生活動作とは別に意識して体を動かすものも入る。)。目標値を50パーセントにするのは低くないか？(国の目標値は国民の3分の2、県は60%以上のようなのだが県内には50%にしている市もある。%以上と表記している市もある。)

事務局…資料4では、計画の実現に向けてということで、推進体制と進行管理についての文言を入れた。検討委員会では記述に関する意見があった。

事務局…資料5では、これまで審議頂いた全体像を確認するために目次を示した。併せて資料編について何を掲載していくか意見を求める。予算化された冊子の体裁として80ページ、400冊。他に概要版の分が予算化された。資料編の一般的なものとしては、委員会の設置要綱、策定委員会名簿(策定アドバイザー含む)、審議会の会議概要が掲載されている。検討委員会では、他市の例、本市における他の計画(男女共同参画プラン)でアンケートを載せないものもあること、予算的に可能であれば別冊とする、予算的に余裕がない場合は必要なものだけを掲載する、アンケートはHPで掲載すれば良いのではといった意見があった。アンケートや聞き取り調査の量が多いため(市民アンケートで約88ページ、小中アンケートで24ページ、団体からの聞き取りで14ページ)、場合によりアンケートはすべてHPで掲載し、資料編には掲載しないこともある。現時点で資料編を除く本編でほしい50ページになる。資料編分としては約30ページだが、他にも冒頭での市長や教育長のあいさつを入れる予定もある。

### 【意見交換】

会 長…資料3の目標値について、国の基準値が示されているが、スポーツの種類にはどのようなものがあるのか？例えば週一回のスポーツ実施率だが、10分間ラジオ体操すればスポーツになるのか、何をもちいてスポーツと定義しているのか。今後、見直しをする場合にアンケートを取るとなると平成26年度に実施した内容と同じものになるということか。

事務局…国のアンケートでは運動・スポーツとして競技的なものからキャンプや釣り、散歩や各種ダンスなど幅広くスポーツの中に含めている。ただし、国や県のアンケート対象は20歳以上の3000人の男女であり、本市の調査では16歳以上の男女1000人と異なっている。さらに小5・中2に対するアンケートを含めると国県の対象年齢との差が広がることになる。見直しを行う際のアンケートについては、平成26年度と同様になると思う。なお、計画の期間で推進計画の見直し作業を33年度に実施とあったが、アンケートを行うことを考慮すると平成32年度か

ら第二次スポーツ推進計画の見直し作業を実施する必要があると考える。

作 野…基本目標1の目標値ですが資料には58.7%とあるが、記憶では平成25年度の国の基準値は48.7%だったような気がする。国のスポーツ基本計画の目標値は3人に2人で65%と高めに設定されている。また、直近のアンケートの数字を聞くとよれば41%位と下がっている。実際の数値は下がっているが国は目標値を高くしている。

事務局…基準値で入っていた国の数値ですが、有効回収数1897人に対する割合でなく、回答のあった1534人に対する割合の合計を掲載しているもの。無効を含めた1897人を分母とすれば、国の基準値は約48%程度になるため、再度計算して数値を掲載する。

委 員…50%が目標値として良いのかどうか判断がすぐにはつかないところはある。しかし、現状の41.4%というアンケートの結果があり、以前も議論になったと思うのだが世代別にみていくといろいろ特徴が違うところがある。その中で市の41.4%を目標値の50%に上げるときに、具体的な施策の中身が記載されていないので、どう実現可能なのかというところが判断も困難。またその中身と併せてどの世代にある程度引き上げれば50%になるのか、そうした観点で数字を最終的には詰めていかないと、全体で50%という評価が難しいと思う。いろいろな世代がある中で例えば30～40代のスポーツ実施率が非常に低い。全国的な傾向ですが、その世代は仕事が忙しくて時間がない、通勤に時間がかかるとか物理的な問題があると、市の施策などで数字を引き上げていくのは難しい。そこで、例えば富士見市は、子供を重点的に手厚くするとか特徴と絡めて中身をみながら、全体的にあげていくことも必要かと思う。

事務局…体育館のリニューアルにあたりアスレチックジム・スタジオの新設が行われる。三芳町では年間利用者が10万人程度。現在の富士見市はかなり利用者が少ない。リニューアル後は、スタジオも子ども連れの若いお母さんや中高年を対象とした活用を図りスポーツ人口を増やしていきたいと考えている。

事務局…利用料金の改正にもつながるため、若干市の考え方を説明したいと思う。どうして体育館の改修でスポーツジムに力を入れたかといえば、最近の利用者の傾向をみると年々高齢化とともに競技人口数が減少している。では、競技人口の方も保護しつつ、体育館利用者を増やすにはどうしたらよいか、近隣の市町、特に三芳町をみると個人利用者数が非常に多いことがわかった。では、個人利用を増やすにはどうしたらよいか、手立てを考えるとスポーツジム・スタジオといったところにより多くの力を注ぐことで利用者が増えていることがわかった。そこで今回はスポーツジムなどに力を入れている。利用料金の見直しについては、最終的には教育委員会内部で決めた金額が議会にかけられるわけですが、基本的には競技人口、高齢者が増えているので、そうした方へ対する料金をどうしていくかが議

論になると思います。世代間の目標値をどうするのかについても、先ほどのアンケートの中身をみても、また先程、委員さんから話があった、やりたくても30～40代は子育て世代であったり、両親の介護であったりとなかなか実施が難しいと思う。これは国も含め同じだと思うが基本的には20代以下と50代以上の方をターゲットとして利用者層を増やしていくことを体育館の改修の目的としている。そこで目標値を50%とする中で、どの世代の層を対象に選ぶかと考えると中高生の方、中高年齢の方を対象として考えていると思う。料金面も含め、65歳以上の方は現在、利用料金が無料ですが、そのままいくことが中高年齢の方が運動しやすい環境になれば、当然そうした制度を継続すべきだと思う。しかし、その一方で中学生以下はどうしているかということ、料金を半額徴収している。公平性の観点からみてどうしますかということ。ただし、お金をとることで運動しなくなるのが一番問題なので、その辺りの兼ね合いをどうしていくか議論になっていくと思うのですが、その辺も踏まえ最終的に答申をいただき教育委員会、市の中で議論していければと思う。また、計画の中でどの層を手厚くするのか、例えば中高年齢の方となれば、料金についても例えば大人の料金一回400円となっているのを本当に400円とするのか、また半額とするのか議論していくことになると思います。また平成12年の国の推進計画では目標値を50%にしていたと記憶している。市の場合は41.4%から50%と約9%の増をしていく案についてどう考えるのか、国も段階的に50%から次の3分の2と目標値を上げている、そうした流れを市も踏襲できていると思うので、そう考えてもいいのではないかと。

事務局…基本的には世代別に考えないと最終的な目標値の達成の具体性があるのか、設定の裏付けがとれないということだと思うので、世代ごとの目標値があるべきだと思う。

委員…子ども、20代、中高年と高齢者と世代別に目標値を設定するということか。

事務局…アンケート自体どういう世代層で比率を抑えているか影響してくると思うが、ある程度数字が出せれば可能だと思う。重点化することで振れ幅が違うと思うが、例えば30代40代の方の振れ幅が3%だとしても、中高年齢の方の幅が5%となれば、全体の人口推計がわかるのでそれを掛け合わせていくことで、人口10万人都市ならおよそ目標値を達成することも逆算できるので、その裏付けとなる資料がないと厳しいというのが先程の委員のご意見だと思う。

委員…アンケートの報告書だとクロス集計表があり、10代20代30代40代と、10歳刻みで数値も出ている。そうすると10代70代は15%位の人がほぼ毎日スポーツしています。一方で30代だとほとんどやらないという人が65%。40代50代の人でも5割くらいの方がほとんどやらない。そういった結果も出ているので、のびしろとしてはその辺りの世代と考える。あとは、どんな策をやる

ことで、その世代に効果が期待できるのかということにつながってくる。個人的には子ども世代、若い世代に運動・スポーツの好きな子を増やしていくこと、運動実施率を上げることが、長期的に見たときに将来につながると思う。だからといって高齢者をないがしろにするわけではないが、「子育てするなら富士見市で」という市の掲げている旗と一致する。何か特徴が出せると柱としてはいい。そこに50%なり、全体の目標をぶらさげていくような施策、達成目標が立てられるといいと思う。

委員…例えば、今の基準値はアンケート調査をしたもののベースが16歳以上になっているが、確か小学生にもアンケートを実施していたと思う。これとは別に参考値として小学生の実績が出ているといいのではないか。この後の「施策の展開」で子どもというのが第一に出てくるので、市としても子どもたちのスポーツの普及について長期的に考えていると思う。

事務局…世代ごとに具体的な施策を立てて、目標値を設定するということでよろしいか。

委員…基本目標1について、1-2-②の中学校の外部指導者の活躍について触れられているが、今現状としては実績があって、今後の方向性が既に見据えられているのか。あてはあるのか現状がどうなっているのかを知りたい。

委員…外部指導者については、国全体で行っている。子どものスポーツ云々でなく、教師の負担軽減も含まれている。現実には各学校、全部ではないがやっている。私の学校でもソフトボールで3名いる。国では制度化していくことが方針のよう。富士見市の外部指導者が充実しているかどうかはわからないが、効果は上がっていると現場では感じている。

事務局…現在10名程度、本市の中学に外部指導者がいる。

会長…特になければ、次の基本目標2について審議したいと思います。「スポーツをする機会の充実及び活動への支援」ということで、「満足度」が掲げられている。現在が29.8%。33年度には35%に。活動の情報量についても目標が掲げられているが、測るのは難しいと思う。

事務局…市民アンケートを行った際に、調査結果から見た今後の課題として作野教授からも指摘をされていた部分。スポーツに関する情報が少ないということだった。また参加したい各種教室も少ないとのことで、それも含め目標値として設定した。

会長…これはHPなど環境が改善すれば数値が上がっていくということか。それとも市の広報で周知するとか。

事務局…活動情報が少ないということで、どこの市町もHPや広報で周知の努力はしていると思う。ただ個人の主観によることが大きいと思う。人により広報があれば情報が多いという人もいれば、HPと広報にあっても項目だけで詳細がわからないということをもって活動の情報が少ないという方もいる。次にアンケートをとるとした場合、何の情報も不足しているのかもわかるようにしていかないと手を打

てない。そうすると目標値も立てられなくなってしまうので、行事の数も含めて丁寧に行政として対応していくしかない。

委員…情報が少ないというが、体協でも、市でも広報をやっていると思う。しかし、ヘルシーウォークなど参加者自体が減っているように思う。10年前辺りから比べれば本当に減っている。スポーツフェスティバルやスポーツカレッジなど事業は同じようにちゃんとやっている。体育館が使えないからか、子どもの数が少ないからか参加者が減っている。参加者が何を望んでいるのかわからない。時代とともに何かが変わってきているのか。そんな中で高齢者の卓球教室だけは増えている。何を望んでいるのか知りたい。

事務局…市民意識調査を見ても具体的に何の情報が少ないのかはわからない。情報をどうやって増やすか、アンケート結果をみると紙媒体が圧倒的に多く、HPによる情報収集がほとんどないという結果が出ていたので、HPによる情報の充実も図っていきたい。

委員…国の紹介になるが、私は今、国の施策に関する仕事に携わっている。国でも同じように情報提供を一生懸命していても、なかなか上がらない。なぜかといえば、無関心な人が多い。よく言われているが7割の無関心層がいるといわれている。その人に対して情報提供しても見向きもしないし、アプローチもしない。言っても右から左に流れてしまう。そういう環境の中で、いかにそのような人たちに関心をもってもらうかが大きな課題。国も全く同じ。どうしていくか、例えば、健康ポイントみたいなものを作って、運動場でスポーツしてポイントがたまれば商店街で何か買えますよというように、スポーツと関係ないものを組み合わせて徐々にスポーツに関心をもってもらう。そうした取り組みを補助金など使って国は行っている。単純に情報だけ出せば上がるという性質のものでもない。目標の立て方、やる中身を工夫しないとこれまでと同じようなことをやってもあまり効果はない。すごく難しいと思う。

委員…例えば、今でいうとポケモンGOのようなもので、スポーツをすればポイントがたまりレアなものが取れますよという、スポーツするかもしれないということですね。

委員…価値を喚起するような仕組みとか策で風穴をあける。そのようなことが必要かなと思う。答えがなく国でもいろいろ試行錯誤している。富士見市の中でどうすれば関心のない方を含めて情報をつなげていくのか、ちゃんと考えないと効果が出ないし、目標も達成できないと思う。

委員…関連ですが、県でも健康マイレージというものがあって、2～3日前の埼玉新聞でも県の進めているウォーキングでポイントをやる事業が掲載された。三芳・和光は先進地。本市も参加する方向で決めている。来年度に向け実施計画にも出している。18歳以上の市民の方にウォーキングということで、健康ポイントを歩

数に応じてポイントを与える予定。県でも一定のポイントがたまると抽選で埼玉県  
の物産を差し上げている。他市では健康診断。どちらかというところの施策は国  
保の経費削減と健康増進という国の施策で進んでいるので、ただ歩くだけでなく  
健康診断をやるとポイントアップということも行っている。本市ではそのポイン  
トを市の物産とか商品券と交換というイメージで来年度に向けて提案している  
ところ。これから政策的な、また市長判断があって決まっていく。全県的にも健康  
マイレージがかなり進んでいる。歩数計も国県から補助があり、まずは千人くら  
い募集しようかと考えている。この歩数計の読み取り機が大きな商業施設にあり、  
そこでポイントが集積されていく。そんなイメージで進めている。スポーツのア  
ンケートを見てもきっかけがないとか、時間がないという方もいますが、通勤の  
際にバス停を一つ二つ手前で降りて会社に行ったり、駅までバスを使わず歩いて  
行ったり、健康に関することをやっていく方もいるが、スポーツというと競技を  
したり、記録を作ったりというイメージが多い。そんな中で健康マイレージとい  
うことで対象は18歳以上になるが、健康増進としては進めていこうとしている  
最中だが、スポーツへの動機づけを考えている。

会 長…特になければ、次の「健康づくりに向けた取り組みの推進」に移ります。目標値  
が40%というのは高めに設定されているようだが。

委 員…市内で開催しているスポーツイベントの中身・内容について、今後、計画に沿っ  
て充実させるとか、見直すといった議論はあったのか。つまり、今までと同じも  
ので継続してやっていくのか、中身の見直しとか、より魅力的なものに充実させ  
てやっていくのかで大分違ってくる。これを機にもう一度見直していく必要があ  
る。参加しようとする人を増やさないといけない。中身の充実はM u s t の条件  
になってくる。

事務局…今年の5月にPR大使が委嘱された。大使にスポーツ選手やタレントがいる。例  
えば来年からのヘルシーウォークにPR大使と一緒に歩いていただき、健康増進  
に努めてもらうということも考えている。幅広い活用で人を呼び込めることを期  
待している。

会 長…次に基本目標の4「スポーツ活動ができる環境整備の推進」についてですが、言  
葉で表現しているとのことでしたが、ご意見をお願いします。具体的な数字が出  
ていないが、稼働率を上げるとか時間帯を変えるとか、計画的に修繕をしていき  
ましょうとのことですが。

事務局…スポーツ環境を整備していくのはお金がかかり、市全体の課題にもなっていく。  
現在、総合体育館の復旧工事を進めているが、これと併せて運動公園を使い勝手  
の良いものに整備するとか、学校開放を行っているが備品を充実し、行えるスポ  
ーツを増やすといったことも含め、より多くの方にスポーツを行える場を増やし  
ていくことを目指している。

副会長…メインアリーナの音響も工事すると思うが、ミキシングルームは高い位置にありフロアからも見えないし、会場の様子がわからない。窓も小さいし、できれば下にもっていくとか。

事務局…調整室はあのままの場所。ただし、立たないと見えないという話は頂いているので、座ったままでも見えるように改修する予定。あと音が反響して聞き取りづらいというお話もあったと思う。恐らく原因は大きいスピーカーで広範囲をカバーしようとするので、どうしても音の流れていく速度の過程の中で音が重なってしまうので、今回は小さめのスピーカーを随所に配置する方向で考えている。別の場所に音響をもっていくと、競技にも影響しかねないので場所はあのままになる。

事務局…計画自体は、平成29年からとなっている。体育館の崩落の影響がありメインアリーナの工事をしているわけだが、3年から4年後にこの計画を見たときに合うような表現にすべきでは。30年度、31年度に見たときに「平成29年度中には再開する予定となっていますが」とあり、ここだけ部分改定する必要があるのでは。現状の説明ならいいが、計画なので表現を工夫すべきかと思うが、委員の方のご意見を伺いたい。計画自体は今年度中に印刷して、29年度から実施の予定。

会 長…作成日が書いてあれば問題ないのでは。また、発行年月日もわかるようにするのだろうし、経過として書かれているのだから特に問題はないと思う。

委 員…内部で発言してよいかどうかわからないが、本来なら基本目標ということなので、いままでの基本目標1、2、3の書き方と併せておくべきだろう。資料にあるような長文にせず、4番目は「環境整備の推進」ということで、まさにその向上を目指すということで、1～2行で終わらせてしまえばよいのではないか。先程の意見もあったが、言い訳ではないが経過については前段というか前文の内容という気がしないでもない。そうすると1～3にあわせて目標か何かでということになると思う。具体的には施策展開の方向はいいと思う。もう少し精査して大きい見出しで2～3行でまとめられれば、何年たってもいいと思う。またそうした状況については、背景として後書きで経過でも、どこかにまとめてあげればいいのでは。目標なのに前段の部分では「望む声が多くみられました」とある。計画には書かなくてもよいと思う。

委 員…確かに他の目標は1～2行でまとめてあるので、あわせてもいいのではないか。

事務局…表現については、また検討していきたい。これまで基本目標の論議をして頂きましたが全体で何かあれば伺いたい。基本目標の1について、確認だが世代ごとに目標値を決めたほうがよいということでしょうか。

委 員…私のイメージでは、そこまでやらなくてもよいと一方と思う。特徴を出す意味で例えばこの世代のここを市の計画で重点的に資源を投入し、実施率のアップをはかり全体としては50%を目指しますといったイメージ。強弱をつけるという

思い。必ずしも各世代の目標値を横並びで置く必要はないと思う。内訳として50%なら50%として、手持ちでもっていて、そこを目指して具体的施策がそこに結びついていく。達成するための施策は持っている、表に出さなくてよいがそこを全体的にやっていく。メリハリをつけ、1つ、2つ出しておいて全体として50%を目指すといった作りでもよいかと思う。

作 野…市民アンケートの結果を用いて頂き、基本目標もできているかとは思っているのだが、基本目標の1で付け加えさせていただくと、市の場合、ほとんどやっていないという人の割合が極めて高かった。国の調査では成人の2割くらいが1年に一度もスポーツをしていないという数値がある。富士見市では41.4%と倍の数値。年代別という話も出たが、いかにこの数値を縮めていくかも大事な指標の一つになると思う。市民アンケートの結果からみられる富士見市の特徴の一つ。もう一つ、クラブの加入者が市では10.6%。国の数値は15~16%。イベントとかに参加するけど、継続的に運動する場としてのクラブに加入している人が極めて少ない。加えて総合型地域スポーツクラブ、県内で一つもない市町村は数市町村。育成率も80数%に達している中で、富士見市にはない。これも目標に入れるべきだと思う。調査報告書の最後のまとめにも富士見型の地域スポーツクラブとまとめをさせていただいたが、少なくとも1つ、2つ、3つとかでいいと思うが、総合体育館も改修されるし、その活用の仕方とも連動するかと思うが、他の自治体に行くと拠点の体育館にクラブハウスとかを置いて、そこをセンターとしてハブを作ってクラブを広げて、クラブへ参加者を広げているところもあるので、ちょうどこのタイミングで考えてもいいと思う。計画にはクラブのことがほとんど出ていないのが残念。課題がわかっているのに継続的なスポーツ、運動の場の話がないので、もし検討の余地があるのであれば総合型地域スポーツクラブというものを何らかの形で入れていただければと。

委 員…クラブ活動している人が低い要因は何なのか。わかる範囲で。

作 野…恐らく場がないのが一つ。クラブ自体小さいのはあるだろうけど、好きな人はやられる。やりたいけどできていない人というのが随分潜在的にはいるが、そういう人たちを拾っていない。入る場がないのかと思う。統計的には成人で4割弱いる。あつたらやりたいけどという意欲の高い、自分から働きかける人だけがクラブに入っているその数字が出ているのではと推測する。

委 員…先生のいったように基本目標の中に入れていくことになるのか。

事務局…アンケートでは総合型地域スポーツクラブ自体を知らない人が多かった。周知していくことは必要と考える。また、目標自体、他の自治体をみると一つのものから数個のものもある。2-3-②に総合型地域スポーツクラブのことが出ているので、例えばそこに設立数を目標値ということで設けることも可能かと考える。

委 員…目標4には入らないのか。文章でやっていたところ。

事務局…柱の構成については、これまで審議会で議論されていたと思う。その中で二番目の塊に、スポーツ団体等への活動支援として総合型地域スポーツクラブの設立についても出ていたものだが検討していきたい。

委員…今の話を伺っていると2-3-②の総合型地域スポーツクラブ、3-3-1の富士見市発祥のバドテニスとか、発祥という非常に他ではないものなので、柱立てしても前面に出してもいいのかなという要素があるので、出し方、目標の立て方を工夫してもよいかと思う。市の特徴のいくつか関連で、中に入れてしまうと埋没してしまうので目立つように項目立てをしてもよいのではないかと感じる。

事務局…特徴的なものに関してどのように掲載していくか、目標として例えばバドテニスで具体的に数値なり目標値として掲載していくということになるか。

委員…必ずしも数値でなくてもよいが、核としてスポーツに関心を持つ人を広げていくというやり方。具体の施策の検討になると思うが、そこが市として魅力的なコンテンツとしてあるので、これを中心に周りに波及していくという出し方もあると思う。総合型クラブだけではダメだと思う。0から1になることで、市民の関心が増える、こういった効果が期待されるのでやっていきますというやり方もある。数値があるほうが評価しやすいという考えもあるが、無理に立てるかどうかが別の議論。

事務局…具体的に他市に普及したり、学校で取り入れて広げたりというのも一つの方策。

会長…続いて資料4に移ります。計画の推進体制ですが、何かご意見をお願いします。推進は生涯学習課と出ているので、先ほど作野先生からあった総合型地域スポーツクラブについても生涯学習課が中心となって推進していくことになるようだが。

事務局…各種スポーツ団体との連携・協力をうたっている。総合型地域スポーツクラブについても周知を行うなど、全体的な推進を生涯学習課で行っていくということ。

委員…総合型地域スポーツクラブの設立は行政以外、私たちが行うものか。

作野…設立の母体はさまざま。初期の頃では行政主導型が多かったが、埼玉県ではいろんなタイプのクラブがある。ふじみ野や志木や浦和にもあるが、市民にあった形で推進母体を考えればよいと思う。施設の管理者が中心に行うものもあるし、地域ごとでいろんな形がある。

会長…かなり誰かが強力に推進しないと難しいと思う。続いて資料5に移りたいと思います。

事務局…今まで審議頂いたものを時系列的に並べ、柱立てして目次を作成している。資料編には一般的なものを掲げている。冊子は一冊80ページと考えていたようで、現在本編だけで50数ページになっている。残りは20数ページ分。アンケートのボリュームが多いため、資料編にすべてのアンケートを掲載していくのは困難。他市では、本文中に掲載したり、アンケートを別冊にしたりする例もあった。スポーツアンケート以外にも小中学生対象のアンケートやスポーツ団体への聞き取

り調査もあった。資料編に掲載していく部分についてご意見を頂きたい。

委員…400冊の用途。配布先を知りたい。冊子にしてどう使うかという話。用途により違うが、資料にこういうものがあれば用途として、入手した側にとってたくさんの資料があった方がいいのか、市民にすれば資料があんまり多くても、そこまで読み込む人もいないと思う。であれば資料はHPで見られればいいのかなどという判断もある。

事務局…400冊の配布先について予算化の時点では、内部の特別職、県内市町村、各公共施設にも何冊か配布、もちろん各課へも配布する予定。基本は内部系。他に概要を作成するが、こちらは市民用。小中学校にも配布予定。

事務局…国や県、他の市町でもHP上でアンケートは掲載しているところもあるようなので、全体の最終的な分量をみた上で、そのようにしていきたいと考える。

会長…これで議論は出尽くしたと思いますが、何かあればお願いします。

事務局…冒頭に報告した総合体育館の件について、審議会へ正式に諮問ということで文書をお配りします。

事務局…会議の冒頭で説明したが、次回に関してはいろいろな要素で基本料金を見直ししていきたい。例えば、高齢者の利用が無料になっているが、施設の改修に伴い、料金を変更しないといけない部分が出てくる。料金の枠組み、金額などこちらからお示ししたものを提示する。次回、具体的な資料を基にご意見を伺い、その次には答申を頂けたらと考えている。

副会長…今日、高校野球の代表が決まった。また、オリンピックも始まる。スポーツは感動を与えてくれるもの。夢を持たせてくれる、希望、そして心を豊かにさせてくれる。私たちは市民の健康のため、また自身の健康のために、市民が一人でもスポーツに親しみ健康に長生きできればと思う。そのことを目的に、達成できるようこれから、いろいろ思索をして、来年に向け計画を作成していきたい。

以上